3
へ 13
3946
3

門 へ13
號 3946
巻 3

雜詮紙屑籠後編

下冊

十返舍一九著

東京都立中央図書館蔵書

東口と湯屋の二階ふ羽根と体さ鶏の嘴
ろぢくりいぢ女房のくちのの庖
ちょそ人のこゝろ琴棊書画詩文連俳ハ
及ぢず月雪花の木のりふ瓢の酒と五候ーくのごんと
の横ぐろ人田のくろふよりも菖蒲玄英つくーと拵で芹の根の
ろぢ目とそこと河のうちふぢ沙魚ふぢ小新とせうつて

ぶぜうの髭のぬくくくくくくくくて夜ふけるとぶるぶるぶるぶるぶるぶる
とろふ陸て何の紙あそもあるとさふ文箱のうへうへうへうへ
せんとゝありの息子のかごうとふ弘金佛ぐく人形ゝゝゝゝゝゝ
二十ふふるまゝど女房屋の二階ゝゝゝゝゝゝ

夫ハ釈ちゃ釈者ハアノまアせうさいの豚とかさづけるハ
文度金とぞすきろうやうとこのはなし宜るんが芸うの屋の
ろうてさういう同度いの処ハもあるめ人様をとらいハも紙ぐ
あるるど人のみと試るとりて米一のこのことする鳥丸の家元
来ハ湯ハまろうて二階へあづうたぞろのまうあて浴ることぐうハ
愛敬様所のいぢるるこんぞうハまぐ出てるるう被如もあるく
るぐう尾ぞうて今出て様さのハ彩屋のしちやのむすころるん
ぐう智ヒ見ぐるの茄子とろうやうハらうまろうくうて

どうしハ女ハやうるぐ上さうくハ夫ハ来るア夫ハ昨日このこと
ろハ春うとんで春さのハどころのゆ家ちて月のごと来ろるぐ悪
く大人ハるを面をてアうくも秘人りんぐ「人ハ武士るぐけいせいハ
石ぐくるぐ美ハあくうハのハ異まさハのあぐせるる雅ぐ「いわ志ハ
拝まて萩の一夜るぐとうんぐのハるんぐ二年義ろうてまさ雅
雪ハハ様さくれ人るんぐ家ハあれ人の天狗ぐ年ハ不見ハあるうて
女湯のぐ志ろうらんろ三一寸来てまろドくくと二ろハの手拭れ
あいぐくく女湯のるぐくとのぐきとむと一人の女ぐ面ともるて波

つてある波姿をぢろぐ〜ながめ彼女はうりあげが上の
さうな髪のとあるのうちのうり肩は元りん件で下へおすうも
こけて居れ人のご考じし髪の毛へ教政の妻らぐまあやめと引
ぞりとぐらくらくらく耳がすう〜えりぐみ作へそうくらりうこう登
ゐ出来ぬであつうのうのうの人文数で皮の紙あのい蒲鉾屋が
ふると欲ぐうさうふ鮫えぐうそしてまア大きうみ屋ぐやあれふ
い処ぐうぐうんぐうトオうりでさあまやの着板ぐせあんみ屋で申
寿人のうり皆ぢやア御らやうりの御ぐうぐうの積ぐまでぐあや

うふうつうりさせ平うみぐ〜ゆうつて湯具の紐と下ぐめの紐
平で猿猴のつの藤でもかけるぐうみ屋のあくと一めんふくり
付いりうまど完ぐさぐりんで屋ぐ性来どめとうぐふうの方
あうびえうう方で居るうぐうう今みぐうみうのとうると平の
結び下と半てん羽織のまでのところをふ猶ふとうてるぐ方
ぐまを後ふ歩ふとうのぐ毛ファ面白へ後ぐうんぐ〜ぐうはへ
まうつうと彼女の屋とかけてふぐうみ髪屋とうくサそのこうび
柳のうりぐそしのえうへまとこ毛ぐてあうい何指ぐ十二はまう

あんとはまつこうのうてもあるあるあ
三ぢゐ波へせと背をと二へんはらとんはてしわくるへるのごとてめ
るゆゐ恥を考てやりく人ものとあんるを女でも食人の家わるつこ
いとしいとろ所をとろ女のごとろうろ百一外いものろい大ごこるはい
あるまどぜ考の世ゐろうある罪とてつこ男ゐあいかあを拾う家
んとろ人的女いふりろ人里後の方をむくとうをとび家女房わて
あをるまとびあとらひて立あごりう家りのとるること
その生ゐ界を姫処を逃げりうこを

第七

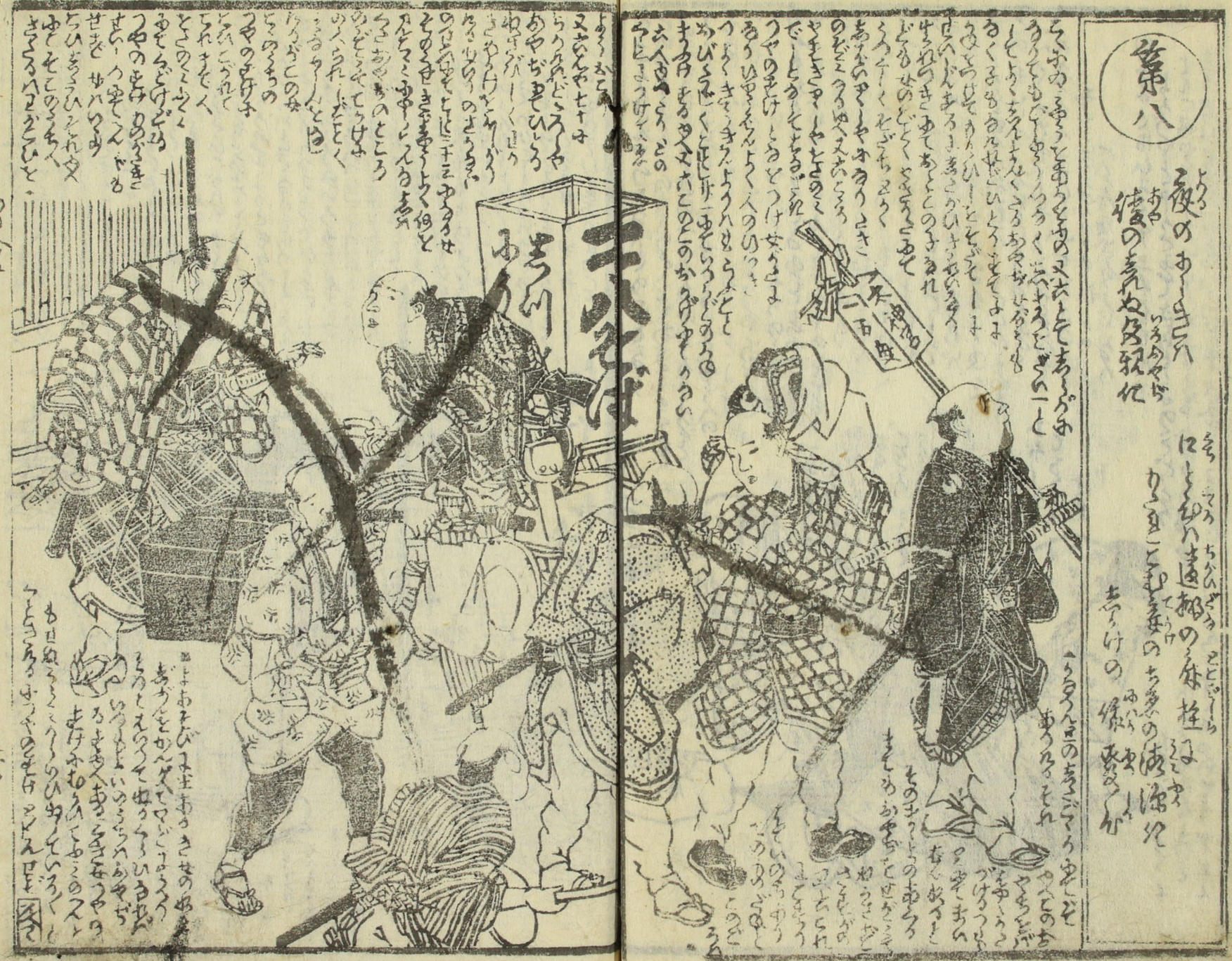
ろめのさろうゐ
義を舞え勤

袖を振合を縁組ゐ
鬼も十七の一ぱなのゐ
彩とやく 縁きを男

つぎさ
▲ぬんぢう
あそんだな
うりりん
▲ごぼさと
とうふ

第八

夜のあくまに八
猫の恋女房狐化



第九

人の皇をよむ横道者むこひ
貴賤公中の出ることを小者の縁
とぐろ　陶義用

歳旦

賣ものの小かさなる花の
ちとうりあるを
はなうりあるを

秋の末　幸　十返舎

○ちよとゑ西ゆそはのろうやとて
巨民主所百病丸　おいさちけ　うんにさとて
市ゑの茶　美艶仙女香　はるかふつりに生
城　如然色紙あらし
東えんま町のうり弟子いのうのうのうり
賣弘所　仮名氏　創製

十返舎一九戯作

北尾紅翠斎美丸画

世間稲荷霊験大船　十返舎一九著　全六冊

梅廼本鶯齋画

棋亭金鶴作

妙竹林話七偏人　初編　二編　近日賣出

ちよとゑ七人の能楽人ゑ門ゑ花ゑ
きらうとまきぐん百りの俗の怪談場さんざ茶釜ゑ
ゑ人狂ゑ百りの俗の怪談場さんざ茶釜ゑ
おゑ物の下で茶とうるゑ腐稲
暑ゑとゑ求ゑ流ゑ極偏者ゑ弟上ゑ

安政四丁巳年
孟春
東都下槙町
大和屋喜兵衛板
書肆